

令和4年度 佐賀市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

- ◆ 日時
令和5年3月28日(火) 14:00～15:30
- ◆ 会場
佐賀商工ビル7階大会議室
- ◆ 出席委員(敬称略、順不同、◎は会長)
田畠寿太郎、蠣久知美、◎平部康子、橋本健夫、久芳真一郎、山田浩示、石田美恵子、古賀史生、小畑良子、松尾真理子、牛島清豪、横尾敏史
- ◆ 欠席委員(敬称略、順不同)
江頭省吾、松本毅、納富靖裕、光野教一、久保知里
- ◆ 次第
 - 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略について【事務局】
 - (2) 講演【牛島委員】
 - (3) 意見交換
 - 4 その他
 - 5 閉会
- ◆ 議事要旨
 - (1) 佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略について【事務局】
 - ・国が策定するまち・ひと・しごと創生総合戦略について、令和4年12月にデジタル田園都市国家構想総合戦略へ改訂が行われた。
 - ・デジタル田園都市国家構想総合戦略においては、「基本目標」などは改訂前と大きな変化はないものの、デジタル技術を社会課題解決の鍵と捉え、官民双方で地方における積極的なDX推進を行う旨が定められている。
 - ・市の取組としては、令和4年7月に佐賀市スマートシティ宣言「スマート・ローカル! SAGACITY」を行い、行政、地域、市民が一体となって佐賀市版DXをさらに強力に進めている。
 - ・国のデジタル田園都市国家構想策定、佐賀市スマートシティ宣言という2つの状況の

変化を受け、令和5年度において佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂を目指す旨を説明し、佐賀市における今後のDX推進に関連した取組の紹介を行った。

- ・今回の会議では、
 - ①デジタル技術に期待すること、デジタル化すべきこと
 - ②暮らしやすいまちづくりに向けて必要なこと
- の2点について、意見交換を行いたい。

(2) 講演【牛島委員】

- ・少子高齢化社会が進展し、社会全体が縮小する時代に突入しており、今後は人手不足の深刻化などが予想されると同時に、課題解決に対しデジタル技術への期待が大きくなっている。
- ・デジタル化については3つの段階があり、一つはアナログ管理をデジタル管理に置き換える「デジタゼーション」、デジタルツールを使い、仕事の流れやサービスを変える「デジタライゼーション」、組織体制や、働き方（風習や文化）を変える「デジタルトランスフォーメーション」である。DXはこの3段階目に当たる。DXを推進するには、ただデジタル技術を導入するのではなく、組織体制や働き方を変えていかなければならない。また、これから目指すスマートシティについても、機能第一ではなく、人間第一の視点を持って取り組まなければならない。
- ・Jennifer Pahlkaが「私たちは行政サービスの消費者ではなく、主体的に関わる市民である。」と講演を行ったが、まさにこの視点を持つ必要がある。
- ・行政主導だけでなく、市民も主体性をもって、みんなで地域の未来を創っていくことがこれからのまちづくりで求められている。

(3) 意見交換

①「デジタル技術に期待すること、デジタル化すべきこと」

○会長

- ・これから意見交換を行う。テーマについては、デジタル技術の活用と、それ以外に分けている。まず、「テーマ1 デジタル技術に期待すること・デジタル化すべきこと」について、ご意見をいただきたい。
- ・先ほどの事務局によると、佐賀市の総合戦略についてデジタルの視点を強化し、これから改訂を行っていくとのことだった。牛島委員のご講演も踏まえたうえで、佐賀市でこういったものがデジタル化すると便利になる、面白い、とか、佐賀市でデジタル化が遅れていると感じる分野などについて、委員のみなさんからご意見いただきたい。

○委員

- ・佐賀県が実施している「防災ネットあんあん」のアプリ化について、高齢者の方から、ダウンロード方法の問い合わせを電話で受けたことがある。アプリの使い方を伝えようとしたが、結局、アプリをダウンロードするところまでしか進むことができなかった。スマートシティというのは、本当に夢があって、こういう分野は大好きだが、推進するときに置き去りになる人がいないような格好にしていきたい。今回、市が行おうとしているのは行政サービスなので、ぜひ皆さんが参加できる姿を描いていただきたい。

○事務局

- ・いただいた意見については、大変大事な話だと受け止めている。たとえば、今、市が構築している佐賀市公式スーパーアプリについては、アプリでしか扱えないサービスは実装しないこととしている。まずは、既存のサービスは残しつつ、それをデジタル化していくという方向性をとっていきたい。

○委員

- ・先ほどのアプリのダウンロード方法や使い方を電話で教えるという事例については、遠隔でスマートフォンでの登録作業を代行するという手法もある。デジタルを活用して、デジタルに不慣れな方をサポートするという考え方もあると考える。
- ・佐賀市公式スーパーアプリについては、金融機関も注目している。たとえば共通IDを付与するなど、金融機関もこのアプリに参画する余地はあると思う。

○委員

- ・子育て世代の立場から意見を述べたい。自分の子どもが1年生のとき、コロナ禍ということで、学校に行かなくても授業が受けられるようにと、子どもたちにタブレット端末が国策として配布された。その後、タブレット端末は、学校では使われているとは思っているのだが、本来の目的であるオンライン授業が行われたことはないと認識している。
- ・デジタル化に期待するのは、こういったタブレット端末を活用して、個人の特性を伸ばしたり、個人のサービスやサポートの恩恵を受けられたりすることだと考えている。デジタルを活用すれば、場所や時間などを問わない学びや仕事ができると思う。
- ・また、フリーWi-Fiの整備についても力を入れていただきたい。人が集まる観光地や繁華街などではフリーWi-Fiが整備されていると思う。佐賀市でもぜひ取り組んでいただきたい。

○委員

- ・私も、教育は大きな課題だと捉えている。私は大分県内の学校の先生向けの研修会のようなものを、担当させてもらっているが、先生方のICT教育に対する意識は、差が非常に大きい。年齢に関係なく、この分野が好きな先生はものすごく好きだが、興味のない先生は全く興味がないという状況が生まれている。こういう先生方が子どもたちに教えるわけなので、教育の格差がすごく生まれるのではないかというのは、気にしている。なので、そういったところを平準化していく必要があると考える。それと、教材の問題もある。デジタル教材の整備がまだまだ追いついてないという部分に課題が残っていると感じている。スマートシティを目指すということで、まちごとスマート化していくときには、こういう分野も解決していく必要があると認識している。

○事務局

- ・オンライン化しないことで集団生活の必要性を学ぶことも重要である一方で、集団生活に馴染めない子どもへのケアとしてオンラインに期待する部分があるなど、いろんな対話の多様性をうまくかみ合わせながら、どうやってデジタル技術を教育分野に生かしていくか模索している。
- ・また、大きなもう一つの壁としては、先ほどお話にありましたとおり学校の先生の方が逆に追いついてないという点がある。委員が指摘されたとおり、デジタルが好きな先生もいらっしゃる一方で、アナログを伝えることに重要性を見出す先生もいらっしゃる。
- ・デジタル化ということについては、もっと社会全体で議論を深めていく必要があると認識している。

○委員

- ・タブレット端末の中に、学習用の教育系アプリを導入するという話は、佐賀市の中で議論はされているのか。

○委員

- ・そういった議論については承知していないが、事例を2つ紹介させていただきたい。
- ・一つは、不登校対策としてタブレット端末を活用しているものである。学校に行きづらく感じている子どもに、配布したタブレット端末を使って、例えば子どもたちで交流したりとか、授業をちょっと遠隔で見たりとか、そういう環境をつくっていくような活用を行っている。
- ・もう一つは、中学校の授業に海外の方とのオンライン英会話を導入しようとして

いる。はじめは一部中学校で試験的に始めてみるが、中学生が生きた英語と触れる機会を提供できるものとして、期待しているところ。スモールスタートからまずは始めてみるという姿勢が大事だと考えている。

○委員

- ・デジタル技術を使って、市民にくまなく情報がいきわたるようにしていただきたい。今の子どもたちを見ていると、SNSなどで欲しい情報ばかりを取り入れようとしているきらいがある。知識に偏りが生じかねないので、自分にとって必要な情報を届けられるような取組を模索してほしい。
- ・デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定を受けて、佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂を行うとのことだが、デジタルはあくまで手段である。その先に佐賀市がどういう姿を目指していくのかということについては、しっかりと議論を行い、戦略に落とし込んでいただきたい。

②「暮らしやすいまちづくりに向けて必要なこと」

○会長

- ・意見交換のテーマ2に移る。私からもいくつかお伺いしたい。教育の評判のいいところに住民は住みたいと思うものだと考えるが、佐賀市はどうだろうか。それと、先日九州大学の伊都キャンパスを訪れた際、交通の不便さに驚いた。タクシーを何とか捕まえようとしたとき、大学生がタクシーアプリを使って配車していたのが印象的だった。佐賀市の交通について、現状をどう受け止めているのか。

○事務局

- ・資料2「佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略 指標一覧」をご覧いただきたい。佐賀市の人口は減少傾向にあるが、年少人口（0歳～14歳）の減少も顕著である。特に若い女性の転出が多く、人口減少の要因のひとつとして認識している。また、「暮らしやすいと思う市民の割合」は年々増加傾向にあるものの、公共交通機関が不便だと感じる市民は8割いるなど、対応すべき課題は残っている。デジタル技術なども活用しながら、様々な方策を考えていきたい。

○委員

- ・今年度から佐賀市に住んでいるが、やはり交通の便が悪い。バスは1時間に2本しか走っていない。一方で、特に高校生などをみると自転車の利用者数が非常に多い。自転車が多いゆえに、バスが左折できず、交通渋滞を招いている等、悪循環に陥っているようにも思える。自転車がスムーズに通行できるように、道路の整備に力を入れてはどうか。

○事務局

- ・バス路線の問題については、佐賀市だけに限った話ではなく全国的な傾向として表れているもの。マイカーの普及とともに、バス利用者がどんどん減っている。利用者が少ないから、本数が減っていく、そして不便になって、ますます人が乗らなくなるという悪循環に陥る。このまま手をこまねいたままでいいわけではないので、今まで解決出来なかったことを、デジタルの力を使って解決していくというのが、今から社会の在り方だと考えている。市として、これからも知恵を絞っていきたい。

○委員

- ・バスに関しては、佐賀県の事業で試験的に県内バス無料のキャンペーンを行っていた。そのときは、佐賀駅の構内にある観光案内所は、バスに関する問合せばかりだった。また、期間がかぶっていた佐賀城下ひなまつりも、キャンペーンを実施していた水曜日、日曜日は、結構たくさんの方がバスに乗ってイベントにお越しいただいていた。無料という思い切った事業ではあるが、何かのヒントになる取組だったのではないかと感じた。

○会長

- ・会議時間も迫ってきたので、以上をもって意見交換を終えたい。事務局の説明では、今後、佐賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂作業に入るとのことだったので、市の執行部においては、本日出された意見をしっかりと受け止めていただき、改訂に向けて検討いただきたい。